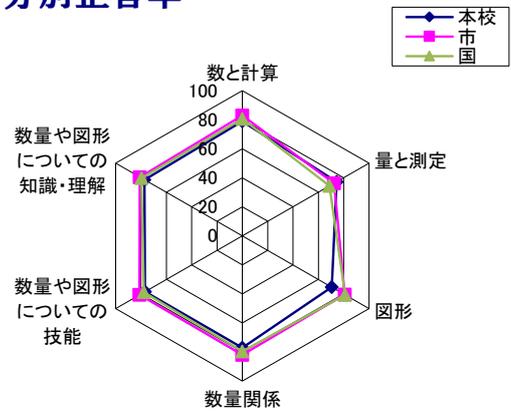


宇都宮市立宝木小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

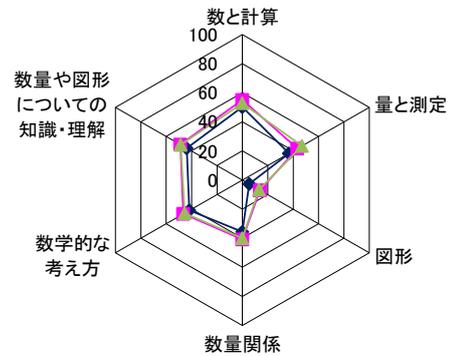
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	78.9	82.9	80.6
	量と測定	74.4	72.5	68.8
	図形	70.5	80.8	81.1
	数量関係	77.1	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	76.9	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	77.3	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	50.2	55.1	52.8
	量と測定	36.8	43.4	47.0
	図形	5.4	13.8	13.2
	数量関係	35.6	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	41.7	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	43.8	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○整数の乗法、小数と整数の計算、商を分数で表す、さらに具体的な問題場面においての立式などは正答率が全国の平均よりやや高く、8割以上の正答率であった。</p> <p>●乗法の問題場面における数量を数直線に表わしたり、加法と乗法の混合した計算をしたりする問題の正答率は全国平均より低い。また、B問題では、資料から必要な数値を選び、求め方を記述する問題で特に正答率が低かった。</p>	<p>・加法と乗法の計算の順番を確認しながら計算する機会を設ける。</p> <p>・いくつかある数値の中から必要な数値を選んで立式する経験をたくさん積ませていきたい。</p>
量と測定	<p>○A問題では、重さや長さの測定に関する理解は全国の平均よりやや高く、平行四辺形や三角形の面積の関係を調べる問題では全国平均より高い。</p> <p>●B問題では、飛び離れた数値の平均を求める問題において単位をそろえて計算することや、求め方を記述する問題において順序立てて記述することの正答率が全国平均より低い。</p>	<p>・単位量による測定や、平行四辺形や三角形の高さが等しい場合の底辺と面積の関係などの問題を復習する機会を設けたい。</p>
図形	<p>●円と五角形を利用した図形についての設問(五角形の内角と円の中心の角度を使って求める問題)の正答率が全国の平均より低い。</p> <p>●立方体の面の平行・垂直の関係を展開図から考える問題の正答率が、全国平均より低い。</p> <p>●B問題では、身近なものに月の大きさを置き換えて基準量・比較量・割合の関係をを用いて月の直径を導き出す問題の正答率が全国平均より低い。</p>	<p>・円と多角形の複合された図形の問題や立方体の空間認知などの発展問題の復習をさせることで図形の特徴を再度復習させ、図形の平面や空間を認知する力を付けさせていきたい。</p> <p>・身近なものに置き換えた基準量と割合をもとに比較量が判断できるなど、発展問題の経験を多く積ませたい。</p>
数量関係	<p>○具体的な問題場面において乗法で表すことができる2つの数量関係の問題では、全国平均を上回り10割に迫る正答率であった。</p> <p>○資料を読み取りながら二次元表に分類整理する問題においては全国平均を上回り、9割の正答率であった。</p> <p>●B問題の仮の平均の考えを利用して示された数値を基準とした場合の平均を求める問題においては全国平均より低い。</p>	<p>・平均の問題など求める方法を指定されて考えたり、求め方を言葉や式を使って記述する問題については難しさを感じていることから、普段の授業の問題や発展的な問題においても記述する機会を設け、自分なりに解決方法を考える時間を設けていきたい。</p>